

## ミニバス

在南アフリカ日本国大使館

南アフリカを訪れると誰もが目にするミニバス。自家用車を持たない多くの南アフリカの市民にとって、文字通り日常の貴重な足となっていますが、このミニバスを誰がどこで作っているか知っていますか？

南アフリカ・ダーバンには、トヨタの工場があり、1962年から稼働し、ハイラックスやカローラ、フォーチュナー等、年間約14万台を生産しています。その生産ラインの一つにカンタム(Quantum)があります。

この車は、南アフリカでは、セスフィキレ(Ses'fikile)という別名でも売られており、車体にも記されています。これはマンデラ大統領の出身であるコーサ語で、「we have arrived」、「やって来た」、「成し遂げた」という意味を持ちます。

このトヨタダーバン工場のセスフィキレ生産ラインは、国民の足の国内生産を希望する南アフリカ政府の依頼を受け、南アフリカで走るほとんど(9割以上)のミニバスを作っています。

ミニバスは、毎日1,500万人以上の南アフリカ人の足となり、公共交通機関の6,7割を占めると言われています。このセスフィキレ生産ラインは300人以上の雇用を生み出していますが(ダーバン工場全体では8,000人)、このラインで働く多くの黒人労働者は、他の人には真似のできない技術を有しており、南アフリカ国旗が記された国のシンボルであるセスフィキレ生産に高い誇りをもって従事しています。

